

研修報告

1. 研修報告書
2. 質問項目についての報告

氏名	船津 結妃		
所属大学	九州大学	学部	生物資源環境科学府
学科	生命機能科学専攻	学年	修士1年
専門分野	微生物工学		
派遣国	イギリス	Reference No	UK-2018-304-01
研修機関名	Ellis IP Limited	部署名	
研修指導者名	Michael Ellis	役職	営業
研修期間	2018 年 8 月 1 日 から	2018 年 9 月 25 日 まで	

【事務局使用欄】
受領日 :

I. 研修報告書

1. 研修報告の概略を 1 ページ以内にまとめてください。

今回の研修で最も印象に残ったのは、人の出会いである。インターンシップ研修先のスタッフだけでなく、多くの人に支えられ充実した生活を送ることができた。現地でできた友達、現地で留学している・働いている日本人、フラットメイト、日本・現地を含めたIAESTEメンバー、IAESTE経験者である先輩方、また業務内容が知的財産であった事がきっかけで繋がった日本の弁理士の方や知的財産業務に従事する方々、営業活動で力添えていたいた母校のOB・OGの方々など、業務前から終了後まで様々な人に支えられた。友達ゼロで始まった初めての海外での一人生活であったが、何もない状態から生活を作り上げていく体験ができたことは、こんな自分でもできるのだと自信に繋がった。もちろん、色々な人に助けてもらったおかげであり、とても感謝している。

もちろん、研修中は自分の能力が足りていないと悩んだり落ち込む事もあったが、それも全て学びだと思ったことと、悩んでいる暇もないくらい刺激的な出来事に溢れていたので、振り返ると充実していくあつという間の 2ヶ月だった。その刺激を与えてくれたのも、繰り返しになってしまいが、人の出会いである。初めは、一人で海外に行くので、2ヶ月間日本語なしで過ごそうと考えたりていた。しかし、現地の日本語教室のボランティアに参加したことがきっかけでたまたま日本人の方に会い、その方のおかげで幅広い方々と出会うことができ、また様々な価値観に触れることができた。「あの時、あそこに行かなかったら…」ということの連続で全ての物語が繋がっていると感じる。

私も研修に行く前は、多くの先輩方の研修レポートを参考にさせていただいたので、これから研修に行く方々の参考に少しでもなればと思い、書かせていただいた。

修士1年の夏休みという時期に、久しぶりに普段の研究漬けの生活から一歩離れ、自分自身の事や将来について落ち着いて考えられる時間を得られたことも非常に良かった。研究室が多忙で、申し込みを諦めようかと締め切りのギリギリまで考えていたが、「やって後悔がする方が良い」というのを身をもって感じた。やらないと後悔もすることもできないので、迷っている人には是非挑戦していただきたいと思う。

2. 研修内容および派遣国での生活全般について4ページ程度で具体的に報告してください。

(研修日誌、テクニカルレポートや単位認定用のレポートの内容を含んだもの。写真もあるとよい。)

● エдинバラの街について

エдинバラはイギリス・スコットランドの首都である。古都の街並みが美しく、毎日日本にはない美しい欧風の建物を見ながら通勤することができた。8月はFringe festivalと呼ばれるお祭りが毎年開催されており、世界中から集まる様々なジャンルのエンターテイナーのパフォーマンスを楽しめる機会があった。準備不足で十分に楽しむことができなかつたが、この時期にエдинバラを訪れる人は行く前にリサーチしてみてほしい。この時期は街に人が増え賑やかになる。その一方で、滞在費はかなり割高であった。治安はヨーロッパの中では良い方であると聞いており、実際住んでみて危険に感じることはほとんどなかった。それでも、危険な区域はあるので、現地で仲良くなつた人に行かない方が良い場所を聞いておいた。基本徒歩の範囲内で生活でき、小川を散策したり(Water of Leith)、トレッキングができたり(Arthur's sheet)、と身近なところで豊かな自然を感じることもできた。このように、とにかく飽きることなく非常に生活しやすい街であった。言語については、スコットランドはなまりが強く聞き取りづらいと聞いていたが、実際はそのように感じることはなかつた。ただ街の中心地を少し離れると、かなり方言が強くなり、その違いを感じることができたのも面白かつた。エдинバラは、樺太よりも北に位置するため、8月は夜でも明るく日暮れは22時頃であった。冬の寒さも緯度ほどは厳しくなく、雪は年に2,3回降る程度であるという。とても街並みが美しく、たくさんの写真を撮ったがここに載せきれないため、気になる方は是非インターネットにて目を通していただきたい。



勤務後の午後 6 時頃でもこの明るさであった。



夕暮れの午後 10 時頃。(8月)

● 弁理士事務所での業務内容

Ellis IP Limited. という弁理士事務所で研修を行つた。特許事務所は知的財産権の申請に関する手続きを代理する職業である。研修内容は、日本の顧客獲得のための戦略策定および営業が主であった。弁理士事務所の顧客は、弁理士や企業の知財部など直接的に知的財産権に関わっている人を始め、中小企業やスタートアップ企業など、今後知的財産権の申請を行うと考えられる人やその周辺の支援団体にも対象を広げ、活動していた。知的財産の知識だけでなく営業の経

験などもなかつたが、勉強しながら手探りで様々な提案をし、実行に移し、次のプランを考えるという試行錯誤を繰り返した。最大の成果としては、日本の弁理士の方から海外弁理士への要望についてアンケート調査を遂行できしたことである。これにより、事務所の課題の可視化に貢献することができた。また、日本人の顧客向けに事務所のについてまとめた日本語のパンフレットを作成した。

研修中には、「イギリスの事務所の魅力を日本の顧客に伝える」ため、ビジネス視点・グローバル視点で研究を捉えるといった、研究室で過ごす中では考えなかつたであろうことについても触れることができた。特許は大まかに言えば、研究成果をビジネスに落とし込むのに必要な手段である。技術の進展・産業の活性化に向けて、产学連携を強化する動きが近年進んでいるが、その一方で、大学は純粋に学問を追究できる場であるべきだという意見も目にした。どちらも各々の重要性を持つため、それぞれが推進されるべきであるという当たり前のことにふと気付けたりもした。またそこから派生して、異なる研究分野同士が連携を強め、「異分野融合研究」、「学際的研究」が進めていく必要があることを学んだ。普段研究している中だけでは出会うことのなかつた考え方だったのではないかと思う。国として研究戦略がどのように立てられているのか、という視点は新しく、今後の研究にも活かされることが多いと感じ、とても有意義な学びであった。初めは、専門分野に全く関係のない研修先であったため不安はあったが、未経験の領域から得られる発見は多くあった。

● 社内の雰囲気 等

イギリス以外にもポーランド、ルーマニアの方が働いており、これまでにもインターンシップ生を数名受け入れてきていた事務所であったため、異文化を受け入れてもらいやすい環境であった。社員の方は皆さん、日本の文化や言葉に興味を持ってください、優しくサポートしていただいた。ディスカッションやランチミーティングに数回参加させていただいたが、年齢や勤務年数に関わらず皆が自分の意見を発信していたのが印象的であった。知識が追い付いていかなかったのもあるが、もっと積極的に発言できることもあったのではないかと後悔している。また、所長が忙しい時期に意思疎通が上手くいかず業務が進まないことがあったが、毎日レポートを書いて提出することを自身で提案して実行していったところ、それまであったお互いのモヤモヤを解消させることができた。しかし、もっと自由に、自発的に行行動して良かったと、振り返ってみると感じる。事務所の一員として動くことによって伴う責任を意識しそぎてしまい、所長のOKが出てから実行に移した方が良いと考え行動していたのだが、所長はもっとSelf starterであって欲しいと望んでいたと思う。この反省点は、今後あらゆる場面で活かしていきたい。

● 食事について

カフェやレストランも多くあるが、外食(特にお酒)は値段が高かつた。そのため、ほとんど自炊で過ごした。日本から、醤油とだしの素を持ってきており、ほぼその味付けで満足できたため、日本食が恋しくなることはなかつた。現地でも購入できるが、値段が高くサイズが大きかつたため、持つ

てきて良かったと思った。また、その調味料は日本食を振る舞う時に非常に役立った。昼食はスーパーで安いサンドイッチやパンを探したり、朝からサンドイッチを作つて持つていったりした。それ以外の日用品は大体日本と同じ物価レベルであった。日本米はチャイニーズスーパーで買うことができ、海外の米はフライパンで炊いた。外食する時は、友達とパブに行くことが多かった。エディンバラはウイスキーが有名であると思ったが、意外だったがジンが近年人気が高いようで、100種ほどもジンがそろうレストランがいくつかあった。パブやレストランの雰囲気や、お酒や飲みの場に関する文化も日本と異なり、その異文化を知ることも面白かった。



友人と研修先の所長の家族に振る舞つた日本食。



現地の方と仲良くなつた事で、会員制のウイスキーのお店に連れて行つたいただいた。

● 携帯電話

giffgaffというSIMカードはおすすめである。7.5ドル/月で十分であった。ドイツのベルリンに旅行に行った際も、Wi-Fi下でなくても問題なく使用することができた。使い方の詳細は、行く前に多くの日本人のブログを参考にした。

● 滞在形態

初めの1ヶ月に滞在した所は家賃が高かつたため、1度引っ越しをした。家探しはネット上で探した後、上司に下見についてきてもらい、判断するのを手伝つてもらった。フラットメイトと一緒に食事を作つたりお酒を飲んだりしながら色々な話をする時間はとても楽しかった。このような関係を築けたのは、フラットメイトが優しかったのもあるが、コミュニケーションの機会を多く取れていたからだとも思う。共用のスペースの掃除を積極的にしたり、掃除してくれていた時はお礼を言いに行って、そのついでにお喋りしたりしていると、ご飯に誘えたり遊びに行く予定ができたりした。また、生活の中でのルールについては、分からぬことがあつたらちょっとしたことでも聞いて解決するよう努めた。このように、自分の気持ちを伝え、相手を気遣うことで、問題なく楽しい日々を送ることができた。次のフラットメイトは台湾からの留学生であり、一緒にご飯を食べたりお酒を飲んだり、自分たちの将来について話したり、どちらでも楽しく過ごすことができた。その人は、以前のフラットメイトと、水周りの掃除、ゴミ捨て、騒音(夜に洗濯機を回す、ゲーム)などでもめたといつてた(初めにこの話をしてくれて気をつけることができたので助かった)。このような点は問題になりやすいかも知れないと思うので、参考にしていただければと思う。



フラットメイトとの夕食。イギリスのティーカップで日本酒を飲むのは、ある意味感慨深かった。ご飯やスイーツをお互い振る舞いあったが、これまで料理をしてきて良かったと思った。食事を通して文化を知れたり、次の予定を立てたり、仲が深まるので、とても良い時間であった。一緒に過ごしてくれたフラットメイトに感謝である。

● インターン以外のアクティビティ

IAESTE メンバーは私が現地に到着した頃にほとんどが帰国するタイミングであったため、他のコミュニティで過ごす事が多かった。在エдинバラ総領事館が発信する情報に日本語を学ぶ現地コミュニティの紹介があり、そこに参加して多くの友人を得ることができた。他にも meetup というアプリを利用して、積極的に様々な文化に交流できるような機会を作った。情報が信頼できるかの判断は慎重に行う必要はあるが、SNS を利用したコミュニティ形成もおすすめである。



エдинバラの日本語会で仲良くなつた方々とフラットメイトを誘って、ハイランド地方のロードトリップをした（左のルート）。車でしか行けないところで、ガイドブックにも載っていない、現地の人だから知っている場所に行けるのは、住むからこそできる経験であると思った。



お菓子を持って出発。
(現地でできた友人)

● まとめ

今回、専門外の分野でのインターンシップであったが、出発前に専門の方に会って話を聞くなどして準備しておいた。これは非常に役立った。出発前は、この際日本人とは交流せず英語のみを話す生活に徹しようと考えていたが、現地で働く日本人の方々には非常に勉強になるお話しを聞かせてもらったりなど、とても良い経験となった。また IAESTE メンバーでの旅行では、理系、就活、海外に興味があるといった共通点の多い中で語り合えたため、とても良い思い出となつた。



IAESTE のメンバーでベルリン旅行。観光はもちろん、お酒を飲みながら色々な話ができる事も楽しかった。

II. アンケート

以下の質問にお答えください。

A. 研修内容について

1. 研修内容は、O-form に記載されていたとおりでしたか。(はい・いいえ)

「いいえ」と答えた場合、どこが違っていたか具体的に記述してください。

2. 就業時間は、O-form に記載されていたとおりでしたか。(はい・いいえ)

実際の就業時間： 1日(8)時間

1週(5)日間；(月)曜日から(金)曜日

3. 研修先から支払われた“滞在費”は、現地通貨で週いくらでしたか。“滞在費”的内訳と日本円に換算した金額をあわせて書いてください。

週単位： 現地通貨(218.75 GBP)日本円(30625 円)

全支給額： 現地通貨(875 GBP)日本円(122500 円)

4. 研修先から支払われた“滞在費”は、生活するのに十分なものでしたか。(はい・いいえ)

「いいえ」と答えた場合、何にいくらぐらい足りませんでしたか。

5. “滞在費”はどのように支払われましたか。(例：現金手渡し・銀行振込・小切手等)

現金手渡し

6. 研修中の滞在先について、宿舎の形態、周辺地域の環境や治安について詳しく記述してください。

フラットシェア。近くに大学生が多く住んでいたため、夜でも身の危険を感じることがなかったが、暗いところもあるので注意は常にしておく必要はあった。

7. 研修中の滞在先(宿舎)から研修地までの通勤について書いてください。(交通の便・手段・費用等)

徒歩 25 分。

1. 研修先での職場環境(人間関係)は良かったですか。(はい・いいえ)

「いいえ」と答えた場合、不満だった点を書いてください。

8. 研修において、何か特別なプロジェクトに参加しましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、参加したプロジェクトの内容を記述してください。

9. 研修において、あなたの語学力(O-form に記載されている Required Language)は客観的に見て十分だったと思いますか。(はい・いいえ)

B. 生活について

1. 研修以外の時間(勤務時間後や週末)はどのように過ごしましたか。

勤務後は自炊をして自宅で勉強。週末はカフェで過ごしたり街を散策したりした。

2. 研修地でIAESTE事務局主催の催しに参加しましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、参加したプログラムの内容とあわせて感想も書いてください。

勤務地であったエディンバラで毎年8月に開催されるプリンジフェスティバルのイベントにメンバーとともに参加した。その後ご飯を食べに行くなどして楽しかった。しかし、自信が到着したことにはほとんどの研修生が帰国間近であったため、交流を十分に深めることはできなかった。

3. 派遣国で、その国の伝統文化に触れるような機会はありましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、どのようなものに参加したか、感想も詳しく書いてください。

前述のプリンジフェスティバルでは、イギリスを中心としたエンターテイナーのパフォーマンス(著者本人によるベストセラーブックに関するトークショー、サイエンスコメディトークショー、等)を鑑賞できた。スコットランドの見学ツアーも味や文化、歴史を楽しめるとともに英語での解説は勉強になった。

4. 派遣国の印象を、現地へ行く前と行った後のイメージの変化も含め、詳しく書いてください。

スコットランドは特に英語のなまりが強いと聞いていたが、大都市であり様々な地方や国から人が集まっているからだと思われるが、ノンネイティブやイギリスの他の地方の英語といった様々な英語に触れることができ、職場・私生活においてともに、特に英語の聞き取りに苦しむことはなかった。

5. 研修国で、日本のことについて質問をされましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、特に印象に残った質問、面白かった質問、あなたが返答に困った質問などがあれば、それにどう答えたかも含めて書いてください。

インターン先は今後日本の顧客を獲得していくことを考えていました。イギリスと日本のビジネスマナーについて問われた。中でも、所長が以前日本で仕事した際に、上の人だけが発言する会議や打ち合わせ(部下は黙って座っているだけ)に違和感を感じ、それはなぜだったのかと聞かれた。実際、インターンの中で、上下関係が日本よりも厳格ではないと実感したのと同時に、個人の意見を主張する事が時にはあまり良いとはされない日本の文化に自分が慣れてしまっていることに気付かされ、会議などでスムーズに自分の意見を発言することができなかった。現地に住む日本人との話題について話す中で、幼い頃の教育が原因の一つであるように感じた。

C. IAESTEとの連絡

1. 研修出発前、手続き上何か問題はありましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。

2. 派遣国への入国時に何か問題はありましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。

大きな問題とはならなかつたが、入国審査で滞在の目的を問われインターンと答えるとそれを証明するものを提示するように言われ、たまたま手荷物に証明となる書類を持っていたため良かったが、準備がなかつたらどうなつていたのだろうと思う。入国時の対策についても考えておく必要があつたと感じた。

3. 派遣国到着後、宿舎ならびに研修先へ自分ひとりで行きましたか。(はい・いいえ)

「いいえ」と答えた場合、誰と行きましたか。

派遣先の所長が車で迎えに来ていた。

4. 3で「派遣国の IAESTE 事務局」と答えた場合、IAESTE 事務局はどのように関与していましたか。

出発前から連絡を取つていたなど、分かる範囲で具体的に書いてください。

5. 研修初日、研修先の受入準備体制は万全でしたか。(はい・いいえ)

「いいえ」と答えた場合、何に不備があつたか書いてください。

6. 研修前から研修期間中、派遣国の IAESTE 事務局は、どのように関与していましたか。

研修期間中、問題が起つたときに適切な対応もしくは助言をしてくれましたか。

派遣国の事務局と滞在中に連絡を取ることはなかつた。

D. その他

1. 今回の IAESTE 研修を通して、最も良かったと思うことを書いてください。

ビジネスカルチャーの違いについて肌で感じることができたこと。大学などへの留学は同年代と接する機会が多いが、職場では多忙な上司に対して自分の意見を簡潔に伝える必要があり、論理的に話を組み立てる力がついたように思う。また、ディスカッションの仕方や人間関係作りといった点も違いがみられ、将来国際的に仕事をしていく上で必要な素養について考えることができた。

2. 研修予定内容に関して事前に勉強をして行きましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、何を勉強し、どう役立つたかを書いてください。

「いいえ」と答えた場合、事前に勉強をしなかつた理由を記述してください。

弁理士事務所であったことから、自身の大学の知財部門および連携している TLO の方にどのような業務が予想されるか、そのために事前にどの知識を持っていけば喜ばれるかなどのアドバイスをいただいた。また知人に弁理士を紹介してもらつていて。実際、このようなコネクションを業務上で活かすことができるため、準備をしていく良かったと非常に強く感じた。

3. 研修終了時に、受入企業に研修レポート(Technical Report, Training Diary を含む)を提出しましたか。

(はい・いいえ)

4. 日本出国前に準備しておいたほうが良いと思われるなどを書いてください。

英語力はある分に越したことはもちろんないため、現地で伸ばすというよりも、出発前に十分に準備して現地で実践するという心持ちは良いと思う。自身がそのようにしておくべきであった。あと、滞在中はあつという間に時間が過ぎてしまうため、観光情報なども事前に調べておき計画を立てておくと現地での時間を有効に使えると思う。演劇などを見に行く場合、人気のチケットは出発前であってもオンラインで予約できるのであればしておくと良いと思う。

5. 所持金やクレジットカード等、いくら・どのように持参されたか、また準備が十分であったかを書いてください。

クレジットカードは3枚持っていましたが、常に2枚と現地の通貨を日本円で2~3000円分くらい持ち歩いた。イギリスはファーマーズマーケット以外はほとんどカードで支払うことができたため便利であったが、カードの限度額を2枚とも超えてしまったため、限度額にも注意を払っておくと良いと思う。日本円を使う場面はほとんどなかったが、日本人の友だちと遊びに行って割り勘した際の支払いではあると便利だった。

6. 日本から持参した物の中で、特に役に立ったもの、あるいは必要なかったものがあれば書いてください。

醤油(ミニボトル)を持っていったのは1番の正解だと感じているが、これのおかげで日本食が恋しくなることはなかった。現地で購入できる場合もあるが高いか、自分の慣れ親しんだ味ではない可能性がある。あと、海苔、ふりかけ、梅干し、おしゃぶりこんぶ、せんべいを持っていったが、出会った人に振る舞うことで交流にも繋がったため、一石二鳥であった。

7. 来年以降、あなたが派遣された国へ、研修生として派遣される候補生に向けての助言を書いてください。
(研修のことだけでなく、語学面や生活面など、気が付いたことはできるだけ詳しく)

同じ国や地域に行った前派遣生と繋がれるのであれば、その人から助言を受けるといいと思う。助言に頼らず自身で全てを経験し失敗することもいい経験であるが、あつという間に時間は過ぎていくため、アドバイスを参考にし、質の良い経験を求めることが良いと思う。

8. 研修前と研修後で、自身の専門分野や国際理解に対する考え方には、どのような変化がありましたか？

今回、自身の専門分野に直結する業務内容ではなかったが、研究開発とビジネスがどう繋がるかと広い視野を持って研究を捉えることができた。産業や学問の発展のためには、その分野の専門性を深めるだけでなく、資金を循環・調達させることも必要であるという側面を知ることができた。国際理解に関しては、日本の社会構造や国民性といったものが、どのように影響し今の国の現状を作っているのかを考察したことによって、自身の目指すべき人材像というのを持つことができるようになった。

9. 今回の研修に参加したこと、海外への留学に興味を持ちましたか？すでに興味を持たれていた方は、その気持ちに変化はありましたか？

予想していなかった事であったが、海外への留学に強い興味を持った。この研修に参加する前は、社会人になる前に海外で生活する夢を実現して帰国後は就活に専念しようと思っていたが、むしろもっと海外で成長したいと思うようになった。友達ゼロからスタートしたが1人でなんとか海外での生活に順応することができると自信がついたからではないかと思う。

10. 今後IAESTEでの研修を考えている学生の方々へ、メッセージがあればお書きください。

出発前の期待も不安も良い意味で裏切られるので、どちらについても頭でっかちになりすぎず、前向きな気持ちで準備を進めると良いと思います。自分の場合、予想をはるかに超える考え方の変化があったので、現地では積極的に物事や人に触れ、普段できない経験にどんどん挑戦することをおすすめします。